

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北関東)	◎	百貨店（店長）	販売量の動き	・来客数は微増だが、11月に入り、売上金額の増加傾向が顕著になっている。
	◎	一般レストラン 〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・近況は変わらず、少人数での来客が多く、年末の宴会予約も週末に偏りがある。滞在時間も徐々に長くなってきて、2次会としての来店も増えてきているため、活気が戻っている。
	◎	都市型ホテル （支配人）	来客数の動き	・宿泊部門はデスティネーションキャンペーンの影響やインバウンド、海外からのビジネス利用等の増加により、高単価で推移している。宴会部門も婚礼や大人数の会合があり、2019年を超える売上となっている。
	◎	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・強いて言えば温暖化の影響か、通常なら11月で伸び悩むところが、12月まで順調に推移している。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・お歳暮の販売が始まったので、幾らか良くなっている。
	○	百貨店（営業担当）	単価の動き	・販売量は前年比98%で推移しているものの、販売単価は103%と上がっている。セット販売等のお陰か客単価が上昇傾向にある。
	○	百貨店（店長）	販売量の動き	・ここ3か月は売上、来客数共に、前年を上回っている。
	○	乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・受注残で遅延していた車両の登録ができる状況になり、登録車両が増えている。
	○	その他飲食 〔ファーストフード〕（経営者）	単価の動き	・当店はテイクアウト商材を中心に販売しているが、この時期、レシート割引を実施しており、売上自体は良くなるものの、利益率が少し下がっている。リピーターを確保して、年末年始の客の囲い込みをしている。
	○	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	単価の動き	・給食事業においては、多数のクライアントより、4月の新年度から取引条件の見直し（単価、業務委託費の増加）を受け入れてもらっている。10月からの最低賃金の引上げに伴い、人件費が上がっているが、トータルで収益面の改善がみられるようになっている。
	○	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・天候の関係で、冬の到来が遅れており、今月下旬までにぎわいが続いていた。外国人観光客の来訪者数も順調に伸びているようにみられる。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・良くなってきていたが、物価高の影響が出始めているようで、旅行代金の上限を決める客が増え始めている。
	○	テーマパーク （職員）	来客数の動き	・猛暑や台風など異常気象が続いていたが、暖かく外出しやすいい日も多くなってきたため、来園者数も安定している。
	○	設計事務所（所長）	お客様の様子	・問合せが来るようになってきている。やはり新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたことにより、以前から計画していたことを実現しようとする動きが始まっている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・郊外の大規模店舗や道の駅は活況を呈しているのとは裏腹に、商店街はゴーストタウン化している。商店街のイベントも経費の高騰と人材不足で四苦八苦しているのが現状で、当店も同様である。客は無駄な買物を控え、物価上昇に備えている。イベントに参加して楽しんでいるだけなのは以前と変わらない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・10月に引き続き今月も、新型コロナウイルス感染症発生前に匹敵する販売量となっている。ただし、人手不足による売上機会の損失があったため、新型コロナウイルス感染症発生前と比較した売上達成度は、10月よりは良くない。3か月前と比べて売上達成度は変わらず、長期的視点に立てば、上向き傾向といえる。
□	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・気温の低下に伴い、アパレル関連の動きがみられるものの、トータルでは横ばいである。おせちやお歳暮の受注が始まったが、初動は厳しい状況である。景況改善には至らない。	
□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・前月並みの来客数、売上で推移している。	

□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月からの販売推移でみると、今月は6ポイントアップしている。金額では前年比107%と伸びている。要因は急激な冬の到来や気温の乱高下で、季節商材が伸びて全体をけん引したことである。構成比の大きいところでは、洗濯機が115%と好調である。
□	家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・来客数は前年比95%前後で推移している。購入商品、価格に関しては時間を掛けて検討する客が多い。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車中古車販売は少し上向いてきたようだが、車検整備等のサービス部門が技術者不足で売上が伸び悩んでおり、厳しい。
□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・先行きが不透明であるため、金額にシビアな状況は変わらない。
□	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・来客数等は変わらないが、今月はやや販売量が良かった。客のムードが少し高まりつつある。消費税や各種増税の噂があるが、そういうことに関係なく安心してお金が使えるムードがあればよい。特に悪い条件も良い条件もない。
□	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・年末に向かっているものの、相変わらず客の動向は買い控えが継続している。
□	住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・人の動きの活発さは感じるが、個人消費、特に生活品への消費意欲は停滞したままである。価格訴求には反応するが、通常期は必要最低限の購入に抑えられ、来店頻度の微減傾向も変わらない。
□	一般レストラン [居酒屋]（経営者）	来客数の動き	・年末の忘年会等も控えているためか、体感だが若干動きが鈍いように感じている。予約がない日のフリー客の動きが弱い。
□	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍では、外出と新型コロナウイルスの感染状況と深く関係していた。最近では、感染症等が流行したからといって客が減るといった感じはない。冬になっても極端に来客数が減ることはないと思している。
□	旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・3か月前の夏休みと現在の紅葉シーズンを比較しても、来客数に大きな変化はみられない。シーズンの波動が小さくなったのか、若しくは行動パターンが変化したのであろうか。
□	タクシー（経営者）	お客様の様子	・11月に入ってから、全体的に動きが余り良くなく、前年同月と比べて横ばいである。
□	通信会社（社員）	単価の動き	・家計の見直しで、加入サービスの解約が増えている。より安価な他社サービスへの乗換えやサービス自体の取りやめが見受けられる。
□	通信会社（営業担当）	単価の動き	・いまだに物価高が続き、節約志向にある。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・年末が近づきながらも景気には変化はないと感じている。良い状態が長続きせず、このところ世論は内閣への厳しい評価もある。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・日本よりも人口が3割少ないドイツにGDPで追い抜かれ、内閣支持率は危機的に低い。思い切った経済対策はいつ始まるのだろうか。
□	その他サービス [自動車整備業]（経営者）	単価の動き	・材料費、運賃等の部材関係の値上げ分と、社員の臨時昇給分が価格転嫁できないため、採算性に影響している。加えて人材不足と求人難のダブルパンチである。来店客の大多数から消費に非積極性を感じている。今年の初めから回復の兆しはみえないままである。
□	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・ニーズに合った商材や土地には人気が集まるが、そういう物件がないため、こう着状態である。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上は100%、来客数は98%、客単価は102%で推移している。10月までは前年を少し超えていたが、当店の100メートル手前で道路工事が始まり、交通規制により交通量の減少の影響を受けている。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ランチタイムは変わらないが、ディナーの来客が減っている。新型コロナウイルス感染症対策で慣れてしまったのか、仕事終わりに友人と食事をする機会が減っているようである。

	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・9月に初乗り運賃が値上げされたにもかかわらず、売上は10%ほど落ちている。今までは、初乗り運賃は2キロメートルまで740円だったが、改正後は1.1キロメートルで500円と、値上がりしているようで500円から600円の近距離乗車が増えていることもある。電車から人が降りてきても送迎車が多く、タクシーの利用客はいない。
	▲	通信会社（総務担当）	単価の動き	・前月比で来客数は1割増加、売上は1割減少となっており、需要はあるものの、価格を見て帰る客が一定数いる。
	▲	通信会社（局長）	それ以外	・円安や物価高がなかなか収まらず、下がってこない。
	▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・競合ゴルフ場との価格競争が再発してきたようである。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・最近、店舗や貸事務所等の撤収がちらほら増えている。店舗関係は相変わらず進展がなく、全体として閉鎖が目立っている。
	▲	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	販売量の動き	・内窓等のリフォーム補助金が予算額に達する見込みだが、駆け込み需要は圧倒的に少ない。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・本当に必要な物以外は購入を控えていると客も話している。
	×	スーパー（商品部担当）	競争相手の様子	・商圈内に同業他社の新規出店の影響が出ており、前年比85%と苦戦している。買上点数や客単価等の影響はなく、来客数の減少イコール前年比での減少となっている。
	×	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・当店の客は高齢者が多く、年金生活者が8～9割くらいだが、全くといってよいほど来店していない。当店だけでなく街にも出てきていない。コロナ禍がずっと続いてきたため、本当にひどい状況である。
	×	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・いまだにボーナスも、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っていない。
	×	通信会社（経営者）	お客様の様子	・若者や高齢者世帯等は、食費で生活費を切り詰めている。ここまでの円安を放置しているのは異常ではないか。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・物価上昇に伴い、消費者が慎重になっている。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
(北関東)	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・以前の予想よりも、受注量が増えている。売上、受注金額もかなり増えてきている。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比べて、この1～2か月は、かなり受注量等が回復している。
	○	輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の生産が安定してきているので、計画どおりに受注も安定してきている。
	○	金融業（営業担当）	取引先の様子	・一部製造業においては受注量が増えており、全体的に取引先の様子が良好である。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・上半期は多少は売上実績を増やすことができたが、なかなか良い景気を迎えることはできない。
	□	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・親会社やその他の工場の様子をみると、それぞれ皆、状況はいろいろと違うので、何とも言えず、分からない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車業界向けの仕事は堅調だが、ロボット業界向けの仕事は内示より大幅に落ち込んでいる。業種や会社ごとに好不調が明確に分かれている状況で、トータルでは大きな変化はない。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・10月に入って、暖房器具、石油ストーブ、ヒーター、こたつ、電気カーペットやエアコン、カセットコンロ、カセットガス、季節物として冬物寝具等は前年並みの物量を確保している。ただし、燃料価格の高騰や車両不足によるコスト高もあり、利益は薄くなっている。

	□	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・事務所ビルの空きテナントでも、駅前にある立地の良い建物は、退去があっても2～3か月ですぐに埋まることはある。一方、駅からの利便性が悪いビルでは空室が埋まることはなく、全体では良くも悪くも横ばいである。
	□	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告出稿の依頼件数は相変わらず低い状況にある。
	□	経営コンサルタント	それ以外	・まだら模様の地域経済は変わらず、個別では好不調の両極に偏った状況がうかがえる。このところ、コロナ禍が話題にされなくなっているなかで、一時的に業績が上向いた企業も落ち着きを見せ、逆に落ち込んでいたところも、その後は目立った深刻さは薄れている。個人消費の基調は意外と堅調だと思われる。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・地方なので、やや良くなっているというところまではなかなか行かないが、少しずつ良くなっていることは確かで、周囲を見ても感じている。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・消費回復に一服感が出ている。国内も海外も混迷しており、回復も頭打ちの感じがする。
	□	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先からの商談や納入の件数、金額のいずれも増加しており、受注件数と金額も増加傾向にある。
	▲	*	*	*
	×	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物価高の影響もあるのか、市場経済も思わしくないなかで、我々製造業も取引先全社からの受注が減っており、気掛かりである。
	×	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占めている。今期の公共工事は前年とほぼ同額だが、全体的には前年の9%減少と厳しい数字である。
雇用関連	◎	—	—	—
(北関東)	○	人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・サービス業の求人が増加したため、やや良くなっている。
	□	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・ここきて、ガソリンや灯油の価格は落ち着き、幾分下がっている。ただし、生鮮食料品、穀物等は出来が悪く、不作な物もあれば、大量に生産できた物もある。購買力はやや鈍い。秋冬物についても天候の変動があるため、出足が悪い。住宅関連では増改築、新築等がやや目立っている。今後に多少、期待している。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数に大きな動きはないが、求職者が仕事を探す際の条件として、完全在宅勤務を必須条件にあげる方が増えており、企業側とのニーズにずれが生じている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の前年同月比が、減少と増加を繰り返している。
	□	学校〔専門学校〕（副校長）	それ以外	・保護者の状況をみると、賃金が上がっている家庭もあれば、厳しい状況のまま授業料の延納希望をする家庭も出ている。総合的にみて、良しあしが共にあるため、変わっていない。
	▲	*	*	*
	×	*	*	*